

科目名	発声					
担当教員		鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 正しい呼吸法・発声法を身につける。 2. マイク通りの良い発声・滑舌を身につける。				
学習目標 (到達目標)		1. 声優・俳優としての発声を身につける。2. 声優・俳優として必要な滑舌を身につける。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		講師作成テキスト				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習		
2	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習		
3	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習		
4	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習		
5	腹式呼吸 声帯ストレッチ			実習		
6	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
7	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
8	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
9	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
10	発声 滑舌課題文練習			実習。滑舌課題文を練習。復習箇所もチェック。		
11	テスト			滑舌課題確認テスト		
12	外郎売			暗唱		
13	外郎売			暗唱		
14	外郎売			暗唱		
15	外郎売			暗唱		
16	テスト			外郎売テスト		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				しっかりと声を前に出す意識を持たせる。		
実務経験教員の経歴		演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

科目名	演技				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 演技者のための基本トレーニング法 2. 演技をするための発声・身体感覚の習得 3. 身体のケア・自己管理能力の習得				
学習目標 (到達目標)	自分の身体に興味を持ち、客観的に見つめながら開発できる。また、自身でケアを行いながら積極的に表現にかかわっていくことができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	特になし。				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	身体トレーニング 1		イントロダクション・トレーニングの重要性		
2	身体トレーニング 2		ストレッチ・リズム運動		
3	身体トレーニング 3		ストレッチ・リズム運動・呼吸法		
4	身体トレーニング 4		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング		
5	身体トレーニング 5		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
6	身体トレーニング 6		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
7	身体トレーニング 7		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
8	身体トレーニング 8		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
9	身体トレーニング 9		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・リセット		
10	演技トレーニング 1		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
11	演技トレーニング 2		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
12	演技トレーニング 3		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
13	演技トレーニング 4		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
14	演技トレーニング 5		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
15	演技トレーニング 6		ストレッチ・リズム運動・呼吸法・筋力トレーニング・発 声・演技を伴う発声トレーニング・リセット		
16	テスト		テスト（身体チェック・自己管理能力・メンタルケア能 力）		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・ D評価を不可とする。			出席は大前提。積極性、参加意欲を重視します。 表現者としてやっていく上での体づくり、声づくりの素地を形成 するつもりで臨んでほしい。日常のコンディションキープと常時 最低限のパフォーマンスを発揮できる自己管理能力を維持する意 思を自覚すること。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動10年以上。				

科目名	歌唱				
担当教員	西潟 明美		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. テキストを元に声楽の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. ミュージカル対応もできるよう、楽曲を用い指導する。				
学習目標 (到達目標)	1. 声楽の基礎を身につける。 2. 正しい音程を身につける。 3. 音域を広げる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	音楽之友社 コールユーブンゲン全曲 全音楽譜出版社 コンコーネ50番中声用				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	声楽のためのストレッチと呼吸 テキスト解説		歌うための身体の準備の仕方、呼吸法を覚える。		
2	声楽のためのストレッチと呼吸 母音と子音の発音		歌うための声の出し方の基礎、口の開け方など修得。		
3	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo3 a/c、コンコーネNo.2 練習。		
4	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo3 a/c No4a/c、コンコーネNo.2 練習。		
5	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo4 No6、コンコーネNo.2 校歌練習。		
6	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo4 No8、コンコーネNo.3 校歌練習。		
7	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo6 No8 No10、コンコーネNo.3 校歌練習。		
8	発声 コールユーブンゲン コンコーネ 校歌		コールユーブンゲンNo10 No11、コンコーネNo.3 校歌練習。		
9	テスト		コールユーブンゲン、コンコーネからのテスト。		
10	1学期の復習 コールユーブンゲン コンコーネ		1学期の復習。 コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
11	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo13、コンコーネNo.4 練習。		
12	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
13	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15、コンコーネNo.4 練習。		
14	発声 コールユーブンゲン コンコーネ		コールユーブンゲンNo15 No17、コンコーネNo.4通し 練習。		
15	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
16	発声 コールユーブンゲン コンコーネ ミュージカル楽曲		コールユーブンゲンNo17 No18、コンコーネNo.7 ミュージカル楽曲A練習。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
試験(発表)30%、基礎力30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			日常から発声を鍛え、音程を正す意識が必要。 声優・俳優もミュージカルに進出することも多くなってきた。 それを意識しつつ学んでいかせる。		
実務経験教員の経歴	声楽指導、ミュージカル歌唱指導者として、30年以上の経験を持つ				

科目名	演奏				
担当教員	富田 一輝		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 各希望楽器を用いたアンサンブル授業 2. 各パートごとの練習、完成後にバンド演奏 3. バンドステージとして発表				
学習目標 (到達目標)	初心者でも楽器が演奏できるようにある。経験者でもより高度なテクニックを身に付ける。 最終的にはバンド形態で1曲以上、演奏が出来るようになる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	楽譜などプリント対応				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	楽器の特性などを説明		ギター・ベース・ドラムス・キーボード		
2	パート分け		各楽器および経験の有無に分かれて練習を開始		
3	まず音を出してみる		経験者は初心者をサポートしながら楽器を演奏してみる		
4	課題曲① 演奏練習		各パートに分かれて課題曲練習		
5					
6					
7					
8	課題曲アンサンブルの練習		バンド形態で課題曲の練習		
9					
10	課題曲① 発表		ステージにて課題曲演奏の発表		
11	課題曲② 演奏練習		各パートに分かれて課題曲練習		
12					
13					
14	課題曲アンサンブルの練習		バンド形態で課題曲の練習		
15					
16	課題曲② 発表		ステージにて課題曲演奏の発表		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
課題①発表30%、課題②発表30%、学習意欲20%、積極性20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			楽器は各自、ご用意ください。		
実務経験教員の経歴		作曲家：2019年4月アニメキラッとプリチャンED 作編曲、同4月Kore:ct「スタートボタン」オリコンウィークリー総合5位 他多数			

科目名	声優				
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 日々行える声優トレーニング法を指導。 2. 呼吸と発声についての基礎的知識を認識させ、正しい発声に役立てる。 3. イントネーション・プロミネンス・ポーズの基礎理解により、表現力を養う。				
学習目標 (到達目標)	1. 声優として持久力のある発声を身につける。 2. 苦手な行の滑舌の克服と強化。 3. 声量やブレス数を調整しつつ語ることができる 4. 長文も滑舌良く読むことができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	講師作成資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
2	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声練習(長音、トレーニングを加えた発声)		
3	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
4	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(サ行・ザ行強化)		
5	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
6	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ダ行・ラ行強化)		
7	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
8	トレーニング 発声・滑舌		実習 トレーニング 発声・滑舌練習(ナ行・マ行強化)		
9	実技テスト		実技テスト		
10	発声・滑舌		発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
11	発声・滑舌		発声・滑舌練習(動きを加えての外郎売練習)		
12	長文訓練		長文練習「暑い日に熱い鍋」		
13	長文訓練		長文練習「暑い日に熱い鍋」		
14	長文訓練		長文練習「真田のサラダの皿だ」		
15	長文訓練		長文練習「真田のサラダの皿だ」		
16	長文訓練		長文練習「固い方高い方」		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験(発表)40%、基礎力30%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			声の仕事に対応できるだけの体力と、発声・滑舌を磨く。 ただし、授業で学べることはやり方であって、積み重ねが必要。 日々、自主的に意識し練習することによって成長につながる。		
実務経験教員の経歴	演技者・ナレーターとして10年以上経験を積む				

科目名		映像				
担当教員		広川　一義		実務授業の有無	○	
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		選択	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1．映像機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2．撮影・編集の基本的知識 3．スマホで撮影・編集・作品制作				
学習目標 (到達目標)		スマホで簡単に動画制作が出来ること				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	カメラ・編集機材の説明					
2	カメラ・編集機材の説明			使用方法		
3	撮影			撮影の基本的知識		
4	撮影			カメラワークについて		
5	撮影			サイズと照明効果		
6	撮影			10カット撮影してみよう		
7	編集			ソフトの選び方		
8	編集			カット編集の基本的知識（静止画）		
9	編集			カット編集の基本的知識（動画）		
10	編集			撮影した動画を自分で繋いでみる		
11	MA			映像に音楽・効果音・ナレーションを入れる		
12	MA			映像に音楽・効果音・ナレーションを入れる		
13	作品制作					
14	作品制作					
15	1分間動画　作品発表　評論			スクリーンにて作品投影		
16	1分間動画　作品発表　評論			スクリーンにて作品投影		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				最終的には自身のスマホを使って自由に動画制作が出来ること		
実務経験教員の経歴		新潟の映像制作プロダクションにて10年勤務				

科目名		照明				
担当教員		新潟照明技研株式会社 五味澤 和宏		実務授業の有無	○	
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		選択	単位数	－	単位時間数	16
授業概要、目的、 授業の進め方		1. ステージ照明の機材・装置の使い方を理解する 2. ステージ照明のプランニングが出来る。 3. 電気・作業手順など安全面を理解する。				
学習目標 (到達目標)		安全に、作業を行うとともに、必要な機材の選定、使用方法を理解し、簡単な演出照明とプランニングを習得する。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	照明基礎1 機材について			舞台照明の役割。機材の出し方、しまい方		
2	照明基礎2 照明卓操作と色の変化			機材の名称、使い方と安全な作業について		
3	照明基礎3 機材について復習と灯体の種類			各自で出し方、しまい方。 照明の各種灯体の説明。灯体の移設と撤去。		
4	照明基礎4 図面の見かたと電気の基礎知識			図面の読み方。回路など電気の知識。 灯体の吊り込み方について。		
5	照明基礎5 照明の図面を使ったイメージ作り			吊り込み実習。灯体に配色。ポリカラーの解説。		
6	照明基礎6 電気基礎 原理基本編			オームの法則、左手の法則など。 一般照明とLEDの設置方法など、照明器具の設営。		
7	照明基礎7 電気基礎 応用編			灯具総数電気容量、使用電気の確認方法等 照明のフォーカス（当たり合わせ）		
8	照明基礎8 照明仕込み図の作り方			図面の作り方、イメージの具現化 図面の仕込みを実際にやってみる		
9	照明基礎9 前期復習（テスト）			前回までの復習と知識面のテスト 人・場面の動きに合わせた操作、スポットフォロー		
10	照明基礎10 基礎授業前期のおさらい			休暇明け、基礎知識・技術の呼び戻し		
11	照明基礎11 演目とイメージ			演目を仮設定し、図面おこし。仮設定された演目の図面から実際に設置し、相違点を発見・修正		
12	照明基礎12 音楽モノの照明プラン			音楽モノの照明について 音楽照明プランと曲に合わせての照明操作		
13	照明基礎13 芝居などの効果演出			演劇用効果の出し方、照明演出について 芝居演目に対応した照明操作		
14	照明基礎14 演出に必要な照明部材と素材			演出照明に必要な機材等の説明 演出用の特殊な装置、灯具などの取り扱い、操作方法		
15	照明基礎15 プランニングまとめ			照明プランに関する復習 操作棒の使い方。高所灯具のフォーカシング		
16	照明基礎16 基礎のまとめ			照明の基礎知識と器具の管理・操作について総ざらい		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				実践を想定して行っています。実習中すべての指示が最適で結果に繋がっていくとは限りません。学ぶ上で、可能な限りのアクシデント及び本番時間による環境の変化を想定して、最適な対応を出来るよう心掛けてください。		
実務経験教員の経歴		新潟照明技研株式会社に所属する現役の照明家				

科目名		音響									
担当教員		株式会社サウンドエイト長谷川 辰也		実務授業の有無		○					
対象学科		全学科		対象学年		全学年		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		－		単位時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 音響機材の使用方法、名前を覚える 2. 各種ケーブルの取り扱い、取り回しを学ぶ 3. 録音機材を使用し、収録した音声を整音する									
学習目標 (到達目標)		音の性質を理解し、扱えるようになる。									
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布									
回数		授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考				
1		音響基礎実習Ⅰ					映像制作における音の役割、録音のやり方を学ぶ				
2		音響基礎実習Ⅱ					音との性質、録音技法、マイクの仕組み方法、ケーブルの種類、扱い方法を学ぶ				
3		音響基礎実習Ⅲ					録音機材の準備方法、撤収方法				
4		音響基礎実習Ⅳ					ブームの使用方法、レコーディング、ミキシング方法を学ぶ				
5		音響基礎実習Ⅴ					スタジオ録音実習				
6		音響基礎実習Ⅵ					アフレコ録音実習				
7		音響基礎実習Ⅶ					アフレコ録音実習				
8		音響基礎実習Ⅷ					効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）				
9		音響基礎実習Ⅸ					効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）				
10		音響基礎実習Ⅹ					整音実習（アフレコ素材の整音）				
11		音響基礎実習Ⅺ					整音実習（アフレコ素材の整音）				
12		音響基礎実習Ⅻ					整音実習（アフレコ素材の整音）				
13		音響仕上げ実習Ⅰ					ミックスダウンを行ってみる。				
14		音響仕上げ実習Ⅱ					ミックスダウンを行ってみる。				
15		音響効果研究Ⅰ					アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する				
16		音響効果研究Ⅱ					アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する				
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。				
実務経験教員の経歴		新潟市を中心にイベント、舞台等の照明・音響を手がける。									

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名		制作				
担当教員		大崎 信行		実務授業の有無	○	
対象学科		全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. イベントが作られる仕組みを学ぶ 2. イベント運営を学ぶ 3. 自主企画イベントを行ってみる				
学習目標 (到達目標)		学生自身のイベント企画、実施				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	イベント企画導入Ⅰ			イベントを組む上での必要な考え方		
2	イベント企画導入Ⅱ			イベントに必要な人材や役割を理解する		
3	イベント企画Ⅰ			公演時に必要な役割と準備		
4	イベント企画Ⅱ			企画書作成に関する基礎知識		
5	イベント企画Ⅲ			演目や内容の提案。内容に関する取り組み方と実現性について		
6	イベント企画Ⅳ			いくつか取り上げたアイデアをもとに、実現性を考えてみる		
7	イベント企画Ⅴ			様々な意見やジャンルからアイデアを集めてみる		
8	イベント企画Ⅵ			アイデアを纏め、短時間設定での企画を立ててみる。		
9	イベント企画Ⅶ			仮想イベントを設定して、企画書の作成を行ってみよう（提出）		
10	イベント企画Ⅷ			イベント論 1 公演目的と意義		
11	イベント企画Ⅸ			イベント論 2 地域交流（イベント）		
12	イベント企画Ⅹ			イベント論 3 多種多様なイベント形態		
13	イベント企画Ⅺ			出演者やスタッフの動きを考える		
14	イベント企画Ⅻ			出演者のタイムスケジュールについて		
15	イベント企画ⅩⅢ			スタッフ進行表について		
16	総括			実演目的の企画を立ててみる。（演目時間自由）		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%				16回すべての授業に出席し、イベントの企画を行う事		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年				

科目名	演出				
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	全学年	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	－	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 映像表現に必要な演出手法を習得する。 2. 学生制作作品をチェックしながら具体的改善的を指導する。				
学習目標 (到達目標)	自ら演出を考え、役者に芝居に応じた演出を付けられる				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	演出基礎Ⅰ		筋書と台詞について		
2	演出基礎Ⅱ		立ち位置、見栄え、動き		
3	演出基礎Ⅲ		効果的な音響・照明効果		
4	演出論Ⅰ		著名な演出家		
5	演出論Ⅱ		歴史的・社会的・世界観表現		
6	演出論Ⅲ		創作演出、メソッド効果など		
7	映像・演出とは何か		画面の映り方による画面効果の違い		
8	映像・演出とは何か		視線の的確な誘導を考える！		
9	特殊撮影について		特撮の演出方法を研究する①		
10	特殊撮影について		特撮の演出方法を研究する②		
11	アクションについて		なめらかに見せる演出方法		
12	アクションについて		フレームインアウトなど		
13	場面転換の効果について		時間経過、場面転換などの演出方法①		
14	場面転換の効果について		時間経過、場面転換などの演出方法②		
15	学生作品（5分）制作		各自、演出方法を参考に動画を制作してみる。		
16	学生作品（5分）の編集チェック		各自、作品を持参してプロジェクター投影しながら編集の 良し悪しの指導を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
作品改善の評価70%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。			編集チェックの作品は自身の作品であること。 また、作品の提出は何本でも可能である。		
実務経験教員の経歴	演劇業界にて実績あり。当校専任講師				

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		音響演出					
担当教員		株式会社サウンドエイト 長谷川 辰也			実務授業の有無		○				
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年		1		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		48時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 音響機材の使用方法、名前を覚える 2. 各種ケーブルの取り扱い、取り回しを学ぶ 3. 録音機材を使用し、収録した音声を整音する									
学習目標 (到達目標)		音の性質を理解し、扱えるようになる。									
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1・2・3	音響基礎実習Ⅰ					映像制作における音の役割、録音のやり方を学ぶ					
4・5・6	音響基礎実習Ⅱ					音との性質、録音技法、マイクの仕組み方法、ケーブルの種類、扱い方法を学ぶ					
7・8・9	音響基礎実習Ⅲ					録音機材の準備方法、撤収方法					
10・11・12	音響基礎実習Ⅳ					ブームの使用方法、レコーディング、ミキシング方法を学ぶ					
13・14・15	音響基礎実習Ⅴ					スタジオ録音実習					
16・17・18	音響基礎実習Ⅵ					アフレコ録音実習					
19・20・21	音響基礎実習Ⅶ					アフレコ録音実習					
22・23・24	音響基礎実習Ⅷ					効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）					
25・26・27	音響基礎実習Ⅸ					効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）					
28・29・30	音響基礎実習Ⅹ					整音実習（アフレコ素材の整音）					
31・32・33	音響基礎実習Ⅺ					整音実習（アフレコ素材の整音）					
34・35・36	音響基礎実習Ⅻ					整音実習（アフレコ素材の整音）					
37・38・39	ホール音響（芝居）					機材の用意					
40・41・42	ホール音響（芝居）					ホールイベント準備					
43・44・45	ホール音響（芝居）					ホールイベント準備					
46・47・48	ホール音響（芝居）					ホールイベント本番					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
実技試験70%、出席率30%							積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用了短編映像作品を完成させること。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。											
実務経験教員の経歴		新潟市を中心にイベント、舞台等の照明・音響を手がける。									

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		音響演出			
担当教員		株式会社サウンドエイト 長谷川 辰也			実務授業の有無		○		
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年		2		開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 音響機材の使用方法、名前を覚える 2. 各種ケーブルの取り扱い、取り回しを学ぶ 3. 録音機材を使用し、収録した音声を整音する							
学習目標 (到達目標)		音の性質を理解し、扱えるようになる。							
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考				
1・2・3	音響仕上げ実習Ⅰ				ミックスダウンを行ってみる。				
4・5・6	音響仕上げ実習Ⅱ				ミックスダウンを行ってみる。				
7・8・9	音響効果研究Ⅰ				アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する				
10・11・12	音響効果研究Ⅱ				アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する				
13・14・15	ライブ音響（音楽）				施設を使用したヴォーカル音響				
16・17・18	ライブ音響（音楽）				施設を使用した簡単な楽器音響				
19・20・21	ライブ音響（音楽）				施設を使用した高度な楽器音響				
22・23・24	ホール音響（音楽）				施設を使用したヴォーカル音響				
25・26・27	ホール音響（音楽）				施設を使用した簡単な楽器音響				
28・29・30	ホール音響（音楽）				施設を使用した高度な楽器音響				
31・32・33	ライブ音響（芝居）				芝居音響 効果音・音楽選曲				
34・35・36	ライブ音響（芝居）				芝居音響 音出し及び効果的サウンド演出				
13	ライブ音響（芝居）				実践芝居での音響				
14	ホール音響（芝居）				ホールイベント準備				
15	ホール音響（芝居）				ホールイベント準備				
16	ホール音響（芝居）				ホールイベント本番				
評価方法・成績評価基準					履修上の注意				
実技試験70%、出席率30%					積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。									
実務経験教員の経歴		新潟市を中心にイベント、舞台等の照明・音響を手がける。							

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		照明演出		
担当教員		新潟照明技研 五味澤 和宏		実務授業の有無		○		
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年		1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. ステージ照明の機材・装置の使い方を理解する 2. ステージ照明のプランニングが出来る。 3. 電気・作業手順など安全面を理解する。						
学習目標 (到達目標)		安全に、作業を行うとともに、必要な機材の選定、使用方法を理解し、簡単な演出照明とプランニングを習得する。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布						
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考		
1・2・3	照明基礎 1 機材について					舞台照明の役割。機材の出し方、しまい方		
4・5・6	照明基礎 2 照明卓操作と色の変化					機材の名称、使い方と安全な作業について		
7・8・9	照明基礎 3 機材について復習と灯体の種類					各自で出し方、しまい方。 照明の各種灯体の説明。灯体の移設と撤去。		
10・11・12	照明基礎 4 図面の見かたと電気の基礎知識					図面の読み方。回路など電気の知識。 灯体の吊り込み方について。		
13・14・15	照明基礎 5 照明の図面を使ったイメージ作り					吊り込み実習。灯体に配色。ポリカラーの解説。		
16・17・18	照明基礎 6 電気基礎 原理基本編					オームの法則、左手の法則など。 一般照明とLEDの設置方法など、照明器具の設営。		
19・20・21	照明基礎 7 電気基礎 応用編					灯具総数電気容量、使用電気の確認方法等 照明のフォーカス（当たり合わせ）		
22・23・24	照明基礎 8 照明仕込み図の作り方					図面の作り方、イメージの具現化 図面の仕込みを実際にやってみる		
25・26・27	照明基礎 9 前期復習（テスト）					前回までの復習と知識面のテスト 人・場面の動きに合わせた操作、スポットフォロー		
28・29・30	照明基礎 1 0 基礎授業前期のおさらい					休暇明け、基礎知識・技術の呼び戻し		
31・32・33	照明基礎 1 1 演目とイメージ					演目を仮設定し、図面おこし。仮設定された演目の図面から実際に設置し、相違点を発見・修正		
34・35・36	照明基礎 1 2 音楽モノの照明プラン					音楽モノの照明について 音楽照明プランと曲に合わせての照明操作		
37・38・39	照明基礎 1 3 芝居などの効果演出					演劇用効果の出し方、照明演出について 芝居演目に対応した照明操作		
40・41・42	照明基礎 1 4 演出に必要な照明部材と素材					演出照明に必要な機材等の説明 演出用の特殊な装置、灯具などの取り扱い、操作方法		
43・44・45	照明基礎 1 5 プランニングまとめ					照明プランに関する復習 操作棒の使い方。高所灯具のフォーカシング		
46・47・48	照明基礎 1 6 基礎のまとめ					照明の基礎知識と器具の管理・操作について総ざらい		
評価方法・成績評価基準						履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。						実践を想定して行っています。実習中すべての指示が最適で結果に繋がっていくとは限りません。学ぶ上で、可能な限りのアクシデント及び本番時間による環境の変化を想定して、最適な対応を出来るよう心掛けてください。		
実務経験教員の経歴		新潟市の音響、照明の会社イベントをはじめ、舞台等、照明と音響を手がける						

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		照明演出					
担当教員		新潟照明技研 五味澤 和宏			実務授業の有無		○				
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年		2		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		48時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 演出に応じた照明設計の考え方を学ぶ 2. 様々なシチュエーションの照明を作る 3. 短編～中編映像を制作する									
学習目標 (到達目標)		監督の意図した世界を表現出来る照明スタッフを育成する。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1・2・3	照明演出基礎Ⅰ					演出に基づいた照明の考え方Ⅰ					
4・5・6	照明演出基礎Ⅱ					演出に基づいた照明の考え方Ⅱ					
7・8・9	照明演出基礎Ⅲ					撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ					
10・11・12	照明演出基礎実践Ⅰ					撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ					
13・14・15	照明演出基礎実践Ⅱ					撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ					
16・17・18	照明演出基礎実践Ⅲ					デジタル一眼レフを使用し、様々な状況で撮影・照明を検証する					
19・20・21	照明演出基礎実践Ⅳ					デジタル一眼レフを使用し、様々な状況で撮影・照明を検証する					
22・23・24	映像照明基礎実践Ⅰ					監督の意図した演出を考え、照明で表現してみる					
25・26・27	映像照明基礎実践Ⅱ					監督の意図した演出を考え、照明で表現してみる					
28・29・30	映像照明基礎実践Ⅲ					監督の意図した演出を考え、照明で表現してみる					
31・32・33	照明基礎Ⅴ					様々な場所の光を数値化してみる					
34・35・36	照明基礎Ⅵ					様々な場所の光を数値化してみる					
37・38・39	映像照明基礎実践Ⅳ					役者の心理を考え、照明で表現してみる					
40・41・42	映像照明基礎実践Ⅴ					役者の心理を考え、照明で表現してみる					
43・44・45	映像照明基礎実践Ⅵ					役者の心理を考え、照明で表現してみる					
46・47・48	照明実践Ⅰ					シナリオを基にした短編映像を制作する					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
実技試験70%、出席率30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。 授業の進め方は各学年で相違はないが、レベルと内容は異なる。				
実務経験教員の経歴		新潟市の音響、照明の会社イベントをはじめ、舞台等、照明と音響を手がける									

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		芸能スタッフ科	科目名	マネジメント	
担当教員		大崎 信行		実務授業の有無	○
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース	対象学年	1	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数 16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 芸能マネジメント全般について 2. タレントマネジメントノウハウ 3. タレント育成について			
学習目標 (到達目標)		芸能マネジメント全般についての知識、タレント育成の考え方			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		必要に応じてプリントを配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	日本の芸能史			昭和から現在まで	
2	芸能プロダクションとは			様々な契約と業務内容	
3	タレントを売り込む			プロフィール作りや宣伝について	
4	SNS			SNS活用	
5	育成			日本と諸学国（韓国）の違い	
6	戦略			AKB戦略（ファン獲得）	
7	育成			営業、管理、運営	
8	当校音楽ユニットのマネジメントⅠ			オーディション	
9	当校音楽ユニットのマネジメントⅡ			選曲、ダンス、ステージング	
10	当校音楽ユニットのマネジメントⅡ			選曲、ダンス、ステージング	
11	当校音楽ユニットのマネジメントⅢ			ライブ企画・準備・広報	
12	当校音楽ユニットのマネジメントⅢ			ライブ企画・準備・広報	
13	当校音楽ユニットのマネジメントⅢ			ライブ企画・準備・広報	
14	リハーサル			本番に向けたリハーサル	
15	本番			30分のステージ	
16	総評			マネジメントで思うこと	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				1年次は良く知られた芸能マネジメントを中心に学習します。	
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴10年以上			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科	芸能スタッフ科	科目名	マネジメント		
担当教員	大崎 信行		実務授業の有無	○	
対象コース	マネージャーコース イベント企画コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 舞台演劇の公演について理解する 2. 本番進行表の読み方、描き方を理解する 3. イベント会場での避難誘導について理解する				
学習目標 (到達目標)	舞台本番時の観客とステージ側の進行面と安全面の指示系統の仕組みまでを理解する				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	(株)リットーミュージック「ステージ・PA・照明用語辞典」 実際に使われた公演資料のコピーを配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	舞台公演での主な仕事		音響・照明・美術・舞台監督など		
2	舞台進行に関わるスタッフ間の連携 1		ステージ周辺のスタッフの連携		
3	舞台進行に関わるスタッフ間の連携 2		演出面での操作スタッフの連携		
4	演出家の存在 1		舞台演出に関する考え方		
5	演出家の存在 2		演出を具現化する為の働き		
6	舞台進行の役割 1		舞台監督の仕事		
7	舞台進行の役割 2		本番中のアクシデント対応		
8	舞台進行の役割 3		本番中でのスタッフ間の連絡（情報の共有・確認）		
9	舞台進行について まとめ		まとめ		
10	ステージマネジメントの知識		消防法などの届け出について		
11	演劇公演準備 1		出演者香盤表の作成		
12	演劇公演準備 2		演目内容本番進行表の作成		
13	演劇公演準備 3		仕込みスケジュール～本番まで		
14	演劇公演準備 4		テクニカル面の確認 リハーサルについて		
15	演劇公演準備 5		劇場でのリハーサルスケジュール		
16	舞台本番について 1		ステージ本番進行表の作成		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%			2年生においては、舞台進行というもう1つのマネジメントを学 習します。		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・ D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴10年以上				

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		芸能スタッフ科	科目名	マネジメント演習	
担当教員		大崎 信行		実務授業の有無	○
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース	対象学年	1	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数 16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 芸能マネジメント全般について実践的に考える 2. タレントマネジメント・声優マネジメントを考える 3. タレント育成についてシミュレーションを交えて実践的に考える			
学習目標 (到達目標)		芸能マネジメント全般についての知識、タレント育成の考え方			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		必要に応じてプリントを配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	当校演劇ユニットのマネジメントⅠ			オーディション	
2	当校演劇ユニットのマネジメントⅡ			脚本選び、ステージング、演出	
3	当校演劇ユニットのマネジメントⅢ			脚本選び、ステージング、演出	
4	当校演劇ユニットのマネジメントⅣ			演劇企画・準備・広報	
5	当校演劇ユニットのマネジメントⅤ			演劇企画・準備・広報	
6	リハーサル			本番に向けたリハーサル	
7	まとめ			講評	
8	当校音楽ユニットのマネジメントⅠ			オーディション	
9	当校音楽ユニットのマネジメントⅡ			選曲、ダンス、ステージング	
10	当校音楽ユニットのマネジメントⅢ			選曲、ダンス、ステージング	
11	当校音楽ユニットのマネジメントⅣ			ライブ企画・準備・広報	
12	当校音楽ユニットのマネジメントⅤ			ライブ企画・準備・広報	
13	当校音楽ユニットのマネジメントⅥ			ライブ企画・準備・広報	
14	リハーサル			本番に向けたリハーサル	
15	まとめ			講評	
16	総評・振り返り			マネジメントで思うこと	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%				1年次は良く知られた芸能マネジメントを中心に学習します。	
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴10年以上			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		芸能スタッフ科		科目名	マネジメント演習		
担当教員		大崎 信行			実務授業の有無	○	
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 舞台演劇の公演について理解する 2. 本番進行表の読み方、描き方を理解する 3. イベント会場での避難誘導について理解する					
学習目標 (到達目標)		舞台本番時の観客とステージ側の進行面と安全面の指示系統の仕組みまでを理解する					
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		(株)リットーミュージック「ステージ・PA・照明用語辞典」 実際に使われた公演資料のコピーを配布					
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考		
1	当校演劇ユニットのマネジメントⅠ				オーディション		
2	当校演劇ユニットのマネジメントⅡ				脚本選び、ステージング、演出		
3	当校演劇ユニットのマネジメントⅢ				脚本選び、ステージング、演出		
4	当校演劇ユニットのマネジメントⅣ				演劇企画・準備・広報		
5	当校演劇ユニットのマネジメントⅤ				演劇企画・準備・広報		
6	リハーサル				本番に向けたリハーサル		
7	まとめ				講評		
8	当校音楽ユニットのマネジメントⅠ				オーディション		
9	当校音楽ユニットのマネジメントⅡ				選曲、ダンス、ステージング		
10	当校音楽ユニットのマネジメントⅢ				選曲、ダンス、ステージング		
11	当校音楽ユニットのマネジメントⅣ				ライブ企画・準備・広報		
12	当校音楽ユニットのマネジメントⅤ				ライブ企画・準備・広報		
13	当校音楽ユニットのマネジメントⅥ				ライブ企画・準備・広報		
14	リハーサル				本番に向けたリハーサル		
15	まとめ				講評		
16	総評・振り返り				マネジメントで思うこと		
評価方法・成績評価基準					履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					2年生においては、舞台進行というもう1つのマネジメントを学習します。		
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴10年以上					

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		ファシリテーション					
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無		×				
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年		1		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 聞く・話すを円滑に行う知識の習得 2. 敬語（丁寧語・謙譲語・尊敬語）を理解する 3. 場に応じた正しい対応力を社会人の仕事の例を使い理解する。									
学習目標 （到達目標）		社会人に向けてのコミュニケーション能力の必要性を理解し、仕事などの場で、人間関係を構築出来る知識を得る。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		参考書「サーティファイ主催 コミュニケーション能力検定初級」（問題集含む）									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1	コミュニケーションとは？					P2 コミュニケーションの必要性を考える					
2	聞く力					P6～P9 目的に即して聞く					
3	聞く力					P10～P14 傾聴・質問する					
4	話す力					P15～P17 目的を意識する					
5	話す力					P18～P22 話を組み立てる					
6	話す力					P23～P29 言葉を選び抜く					
7	話す力					P30～P35 表現・伝達する					
8	実践基礎 1					P36～P39 来客応対					
9	実践基礎 2					P40～P43 電話応対					
10	実践基礎 3					P44～P48 アポイントメント・訪問・挨拶					
11	実践基礎 4					P49～P54 情報共有の重要性					
12	実践基礎 5					P55～P59 チーム・コミュニケーション					
13	実践応用 1					P60～P65 接客・営業					
14	実践応用 2					P66～P71 クレーム対応					
15	実践応用 3					P72～P77 会議・取材・ヒヤリング					
16	実践応用 4					P78～P83 面接					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							授業では、教科書にない事例も使います。また、特に必要と感じたコミュニケーションの話しも交えながら進めて行くことで、より身近なこととして必要性を感じながら履修してください。				
実務経験教員の経歴											

対象学科	芸能スタッフ科	科目名	社会人常識マナー検定		
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	×	
対象コース	マネージャーコース イベント企画コース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 社会人、組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解する。 2. 人として必要な知識やビジネスマナーを修得する。 3. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を修得する。				
学習目標 (到達目標)	1.社会常識を理解する。2.ビジネス計算力を身につける。3.立居振舞い、言葉遣いなどを身につける。4. ビジネスマナーの基礎を理解する。5.社会人常識マナー検定3級合格を目指す。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト2・3級 公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定第21回～第28回過去問題集 3 級				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	社会人常識マナー検定試験について 社会と組織 1		社会人としての自覚やキャリア、会社組織について。テキストP1～20		
2	社会と組織 2		組織と役割、社会変化とその対応。テキストP22～32		
3	仕事と組織		目標の重要性、主体性と組織運営。テキストP34～54		
4	一般常識 1		社会常識の基礎用語。漢字など。テキストP56～70		
5	一般常識 2		社会常識の基礎用語。用語など。テキストP70～86		
6	ビジネスコミュニケーション 言葉遣い		人間関係とコミュニケーション。敬語と話し方。テキストP102～144		
7	ビジネス文書		ビジネス文書の特徴。社内文書。テキストP146～156		
8	ビジネスマナー		組織の一員としてのマナー。来客応対。テキストP176～196		
9	定期試験		テストと解説。		
10	電話対応		電話対応の重要性。電話の受け方、掛け方の心得。テキストP202～214		
11	交際業務		慶事・弔辞のマナー。テキストP128～238		
12	文書類の受け取りと発送		受発信文書の取り扱い。オフィス環境。テキストP242～249		
13	計算		ビジネスにおける計算。数式。テキストP90～99		
14	日本		都道府県名・県庁所在地・各県の特色など。		
15	検定対策①		過去問題の解説、確認。		
16	検定対策②		過去問題の解説、確認。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			社会人として必要なマナーや知識を修得。検定合格は勿論のこと、社会への意識を高めさせたい。		
実務経験教員の経歴					

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		ビジネス著作権					
担当教員		神田 幸司			実務授業の有無		×				
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年		2		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 著作権の基本的知識習得を行う。 2. 前期、教科書中心に授業を行い、後期は問題集で知識習得の確認を繰り返す。 3. 実際の判決例などを取り入れ、より著作権が身近なものである工夫を行う。									
学習目標 (到達目標)		1. 著作権の基本的知識が理解出来る。2. ビジネス著作権BASIC合格を目指す。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		ビジネス著作権検定公式テキスト（ウイネット） ビジネス著作権検定初級問題集（サーティファイ）									
回数		授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考				
1		著作権とは何か					イントロダクション・著作権の性質・著作権法の目的				
2		著作権で保護されるもの					著作物の定期・著作物該当性に関するその他の問題点 著作物の例示・特別な著作物 教科書P1～P19				
3		著作権は誰が持つ					著作者の定義・著作者の例外・著作者と著作権者 教科書P23～29				
4		著作権の内容 1					著作権の内容・著作者人格権・公表権・氏名表示権・同一性保持権・一身専属性 教科書P31～P41				
5		著作権の内容 2					財産権の内容・複製権・上演権及び演奏権、上映権・公衆送信権・貸与権、譲渡権、二次的著作権 教科書P43～P59				
6		著作権は誰が持ついつまで保護される					著作権の始期・著作権の保護期間・国際的保護 教科書P63～P69				
7		他人の著作物は勝手に使えない					著作権の譲渡・利用許諾・契約 教科書P73～P77				
8		勝手に使える場合がある					権利制限規定・私的使用・不随的著作物・教育・図書・非営利無償の上演、演奏・引用転載 教科書P83～P101				
9		著作物を伝達する者を保護する制度					著作隣接権（実演家）（レコード製作者）（放送事業者・有線放送事業者）・隣接権保護期間 教科書P117～P129				
10		勝手に使うとどうなるか					著作権の侵害・みなし侵害・著作権侵害罪・民事的対策 教科書P133～P145				
11		著作権に関する関連制度					知的財産権制度・情報モラルと著作権 教科書P149～P155				
12		産業財産権とは					特許権・実用新案権・意匠権・商標権 プリント配布				
13		ビジネスと法・著作物に関する基礎知識・著作者とは					問題集P8～P17 確認テストおよび解答・解説				
14		著作者の権利・著作隣接権・著作権を無断で利用できる例外					問題集P18～P32 確認テストおよび解答・解説				
15		著作権の変動・著作権の侵害と権利救済・著作権法とその周辺					問題集P33～P40 確認テストおよび解答・解説				
16		模擬試験（過去問題より重要部分を出題）					答え合わせおよび解説				
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
検定合格40%、模擬試験30%、確認テスト合計点20%、学習意欲10%							出席日数および授業態度次第では検定受験不可とする。検定合格を目指すことはもちろんですが、芸能ビジネスでは重要な知識となるので、しっかりと理解に努めること。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。											
実務経験教員の経歴											

対象学科		芸能スタッフ科		科目名	実践行動学				
担当教員		若狭 利之			実務授業の有無		×		
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年		1	開講時期	前期・後期	
必修・選択		必修		単位数				単位時間数	15時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 前期1回、後期2回実施 2. 人間力（自主性・プラス思考・実行力など）の育成 3. Part 1 ～Part 3 を毎回グループに分かれて実施							
学習目標 (到達目標)		将来に対する目標設定・プラス思考・働くことへのモチベーション向上							
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		実践行動学テキスト配布 実践行動学研究所							
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考				
1	Part 1 マジックドア 1				夢と目標 P 1 ～P 7				
2	Part 1 マジックドア 2				誤った思い込みと言いつけ P 8 ～P 1 3				
3	Part 1 マジックドア 3				行動のよりどころと心構え P 1 4 ～P 2 2				
4	Part 1 マジックドア 4				まず第 1 歩を P 2 3 ～P 3 2				
5	Part 1 マジックドア 5				目標設定しよう P 3 3 ～P38				
6	Step Up Sheet				目標設定達成の振り返り P 3 9 ～P 4 2				
7	Part 2 マジックドア 1				プラス思考が自分の能力・可能性を大きく広げる P 1 ～P4				
8	Part 2 マジックドア 2				考え方を変えれば行動が変わる P 5 ～P 1 1				
9	Part 2 マジックドア 3				あなたの問題は、あなたが解決できる P 1 2 ～P 1 9				
10	Part 2 マジックドア 4				あなたのコミュニケーションスタイルを見直そう P 2 0 ～P 2 7				
11	Part 2 マジックドア 5				目標が才能・可能性を開花させる P 2 8 ～P 3 2				
12	Step Up Sheet				目標設定達成の振り返り P 3 4 ～P 3 6				
13	Part 3 マジックドア 1				入学から今日までの成長を実感しよう P 1 ～P 4				
14	Part 3 マジックドア 2				働く自分をイメージしてみよう P 5 ～P 1 0				
15	Part 3 マジックドア 3				自分が最大限に生きる働き方とは P 1 1 ～P 1 5				
16	Part 3 マジックドア 4				将来を描いてみよう P 1 6 ～P 2 0				
17	Part 3 マジックドア 5				夢実現への第一歩を踏み出そう P 2 1 ～P24				
18	Step Up Sheet				夢実現整理・行動計画の振り返り P 2 5 ～P 2 8				
評価方法・成績評価基準					履修上の注意				
積極的取り組み40%、発表内容30%、リーダーシップ30%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					講師はあくまでも授業の進行役（ファシリテーター）でしかありません。ファシリテーターの指示に従い、グループで授業を進めて下さい。 Step Up Sheetは時間に含まない（あくまでも補講）				
実務経験教員の経歴		実践行動学ファシリテーター資格者							

対象学科		芸能スタッフ科	科目名	イベント企画制作	
担当教員		渡辺 味希		実務授業の有無	○
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース	対象学年	1	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数		単位時間数 32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. イベントの基礎 2. イベントの種類 3. イベント企画の基礎			
学習目標 (到達目標)		イベントの本質を理解し、様々な企画が出来る			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		プリント配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1・2	イベントとは			SPとPRの違い	
3・4	イベントの歴史			70年大阪万国博覧会など	
5・6	イベント（スーパーや商店街）			プリント配布	
7・8	イベント（運動会や地域の活動）			プリント配布	
9・10	スポーツイベント（記録会からオリンピックまで）			プリント配布	
11・12	展示会イベント			プリント配布	
13・14	国際的イベント（サミットなど）			プリント配布	
15・16	ライブイベント（音楽）			プリント配布	
17・18	試写会イベント（映像）			プリント配布	
19・20	トークイベント			プリント配布	
21・22	演劇イベント			プリント配布	
23・24	その他のイベント			プリント配布	
25・26	イベントの企画からプレゼンテーション			授業内でイベント企画を行った上で随時、PowerPointを 使ったプレゼンテーションを実施	
27・28					
29・30					
31・32					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
プレゼンテーション80%、学習意欲20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・ D評価を不可とする。				自身の考えて実行する授業ゆえに積極的に参加すること！	
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて26年の指導、MBAホルダー			

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		イベント企画制作			
担当教員		渡辺 味希			実務授業の有無		○		
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年		2		開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数				時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. イベントの基礎 2. イベントの種類 3. イベント企画の基礎							
学習目標 (到達目標)		イベントの本質を理解し、さらに演出効果を企画に落とし込める							
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		プリント配布							
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考			
1・2	町興しイベント企画➡プレゼンテーション					授業内でイベント企画を行った上で随時、PowerPointを 使ったプレゼンテーションを実施			
3・4									
5・6	演劇を主としたイベント企画➡プレゼンテーション								
7・8									
9・10	音楽を主としたイベント企画➡プレゼンテーション								
11・12									
13・14	PRを主としたイベント企画➡プレゼンテーション								
15・16									
17・18	SPを主としたイベント企画➡プレゼンテーション								
19・20									
21・22	映像を主としたイベント企画➡プレゼンテーション								
23・24									
25・26	社会問題（環境）を主としたイベント企画➡プレゼンテーション								
27・28									
29・30	自由課題～ベント企画➡プレゼンテーション								
31・32									
評価方法・成績評価基準						履修上の注意			
プレゼンテーション80%、学習意欲20%						自身の考えて実行する授業ゆえに積極的に参加すること！			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。									
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー							

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		ステージマネジメント					
担当教員		大崎 信行			実務授業の有無		○				
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年		1		開講時期		前期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		48時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 各学科コースで、それぞれの役割（スタッフと演者）を決めて演習を行う 2. 本番さながらの事柄を様々な経験を模擬体験することを目的とする 3. 協調性・積極的・主体性が無ければ成立しない授業である									
学習目標 (到達目標)		様々な経験をすることで、本番に対応出来る人材育成を目標とする									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		台本など必要物はその都度、配布する									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1・2・3	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
4・5・6	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行う					
7・8・9	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
10・11・12	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行う					
13・14・15	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
16・17・18	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行う					
19・20・21	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
22・23・24	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行う					
25・26・27	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
28・29・30	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行う					
31・32・33	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
34・35・36	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行う					
37・38・39	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
40・41・42	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行う					
43・44・45	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇					それぞれの学科コースに分かれて準備を行う					
46・47・48	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）					各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行う					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
主体性・積極性・協調性60%、舞台ステージ・映像作品完成度40% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							舞台・ステージ・映像作品など、あらゆることに積極的かつ協調性を持って履修下さい。				
実務経験教員の経歴		様々なプロフェッショナルと共同で授業実施									

対象学科		芸能スタッフ科	科目名	ステージマネジメント		
担当教員		大崎 信行		実務授業の有無	○	
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 各学科コースで、それぞれの役割（スタッフと演者）を決めて演習を行う 2. 本番さながらの事柄を様々な経験を模擬体験することを目的とする 3. 協調性・積極的・主体性が無ければ成立しない授業である				
学習目標 （到達目標）		様々な経験をすることで、本番に対応出来る人材育成を目標とする				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		台本など必要物はその都度、配布する				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2・3	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇			それぞれの学科コースに分かれて準備を行う		
4・5・6	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）			各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う		
7・8・9	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇			それぞれの学科コースに分かれて準備を行う		
10・11・12	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）			各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う		
13・14・15	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇			それぞれの学科コースに分かれて準備を行う		
16・17・18	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）			各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う		
19・20・21	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇			それぞれの学科コースに分かれて準備を行う		
22・23・24	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）			各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う		
25・26・27	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇			それぞれの学科コースに分かれて準備を行う		
28・29・30	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）			各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う		
31・32・33	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇			それぞれの学科コースに分かれて準備を行う		
34・35・36	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）			各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う		
37・38・39	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇			それぞれの学科コースに分かれて準備を行う		
40・41・42	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）			各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う		
43・44・45	準備：音響・照明・映像・歌唱・演劇			それぞれの学科コースに分かれて準備を行う		
46・47・48	本番：歌唱ステージ・演劇舞台・映像作品（ドラマなど）			各コース、それぞれに分かれて10分～30分程度の本番を行 う		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
主体性・積極性・協調性60%、舞台ステージ完成度40% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				舞台・ステージ・映像作品など、あらゆることに積極的かつ協調性を持って履修下さい。		
実務経験教員の経歴		様々なプロフェッショナルと共同で授業実施				

科目名	SNSマーケティング				
担当教員	岩佐 陽一		実務授業の有無	○	
対象学科	芸能スタッフ科	対象学年	1・2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 芸能プロダクション業務を正しく把握する。 2. 芸能プロダクションに仕事内容や契約を正しく理解する。 3. 前期は芸能プロダクションのビジネス的基礎知識を修得し、後期はケーススタディーから各プロダクションのビジネス手法を学習する。				
学習目標 (到達目標)	芸能界におけるタレントの仕事内奥や契約について正しい知識を修得する。自身に合った芸能プロダクションを知る。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～3	芸能プロダクションについて		タレント発掘・育成・マネジメント		
4～6	芸能プロダクションの仕事内容		プロデュースおよびマネジメント・価値を高めエンターテインメントの創造に寄与する。		
7～9	タレント発掘について		オーディション・コンテスト・売り込み・スカウトなど		
10～12	タレント契約について		専属契約・包括契約・その他、著作権上の契約		
13～15	芸能プロダクション所属とフリーランスの違い		企業とのパートナーシップ関係と個人での活動展開について		
16～18	芸能界における報酬について		歩合制か固定制か・売れてもアルバイトを続ける理由		
19～21	タレントの権利Ⅰ		パブリシティー権について		
22～24	タレントの権利Ⅱ		実演家が持つその他の権利（隣接権）		
25～27	○ 前期評価試験		前期学習した範囲の復習（記述）		
28～30	アナウンス系芸能プロダクションについて		セントフォース・オフィストゥーワン・圭三プロ・三柱・フォニックスなど		
31～33	俳優系芸能プロダクションについて		テアトルアカデミー・スターダスト・ホリプロ・ユニマテ・研音など		
34～36	音楽系芸能プロダクションについて		アミューズ・烏龍舎・エイベックス・ソニーミュージックアーティスツなど		
37～39	お笑い系芸能プロダクションについて		浅井企画・太田プロダクション・オフィス北野・タイタン・プロダクション人力舎・吉本興業など		
40～42	タレント系芸能プロダクションについて		サンミュージック・松竹芸能・ワタナベエンターテインメント・マキセ芸能社など		
43～45	声優ナレーター系芸能プロダクションについて		アーツビジョン・IAMエージェンシー・青二プロダクション・81プロデュースなど		
46～48	モデル系芸能プロダクションについて		シャノワールモデル・オスカープロモーション・プラチナムプロダクション・ジャパンモデルほど		
49～51	後期評価プレゼンテーションⅠ		現存するプロダクションの特徴や他社との差別化された部分をパワーポイントにまとめ、発表を行う。		
52～54	後期評価プレゼンテーションⅡ		現存するプロダクションの特徴や他社との差別化された部分をパワーポイントにまとめ、発表を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
前期評価試験30%、後期評価プレゼンテーション30%、企業レポート（全7回）30%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			後期以降、授業毎にレポート提出があります。内容は、各プロダクションに関する企業規模や内容です。評価基準になりますので忘れないように。		
実務経験教員の経歴					

対象学科		芸能スタッフ科	科目名	楽曲プロデュース		
担当教員		小野 憲人		実務授業の有無	○	
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数	96時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 作詞を中心とし、プロデュースについて学ぶ。 2. GarageBandを使用し、自分の声を録音することで客観的に評価する。 3. 自分自身で制作することにより、言葉一つ一つの重みを理解する。				
学習目標 (到達目標)		1.自分の声を録音することができる。 2.テーマに沿った歌詞を書く事が出来る。 3.作品、アーティストのイメージの構築方法が理解出来る。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		適宜プリントにて対応。				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	オリエンテーション			自己紹介、授業目標の説明、データ共有方法の説明。		
3・4	CMソングについて、ガレージバンドの操作について。			実習（青森リンゴテーマソング制作）。プリント配布。		
5・6	メジャー調ロック			実習（夢についての歌詞制作）。プリント配布。		
7・8	マイナー調ロック			実習（テーマ約束）。プリント配布。		
9・10	王道アニソン			実習（テーマワンピース）。プリント配布。		
11・12	王道バラード			実習（テーマハナミズキ）。プリント配布。		
13・14	コライト（共作）			実習（グループを組んで制作）。プリント配布。		
15・16	前期まとめ			前期の振り返り		
17・18	J POP			実習（テーマ夏の終わり）。プリント配布。		
19・20	K POP			実習（テーマ訳詞）。プリント配布。		
21・22	コミックソング			実習（テーマツイッター）。プリント配布。		
23・24	プロデュース（ミュージックレイン）			実習（テーマTry sail）。プリント配布。		
25・26	プロデュース（ミュージックレイン）			実習（テーマ雨宮天）。プリント配布。		
27・28	プロデュース（ミュージックレイン）			実習（テーマ麻倉もも）。プリント配布。		
29・30	プロデュース（ミュージックレイン）			実習（テーマ夏川椎菜）。プリント配布。		
31・32	メジャー調ロック			実習（同じテーマ夢についての歌詞制作）。プリント配布。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
前期・後期において振り返りレポートの提出60%、学習意欲40% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				オーディションへ提出する仮歌を収録することがあります。課題レポートの提出があります。		
実務経験教員の経歴						

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		SNSブランディング戦略					
担当教員		小野 憲人			実務授業の有無		×				
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年		1・2		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		－		単位時間数		32時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. SNSを使ったセルフプロモーションの向上 2. ブランド戦略について 3. SNSを使ったマネタイズ出来る人材育成									
学習目標 (到達目標)		自身のブランド力を高め、SNSでより多くの顧客を獲得し、自身でマネタイズを展開する。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		iPad・スマートフォンを使用 プリント配布									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1	ブランド展開とは					選ばれる戦略					
2	市場リサーチとマーケティング					消費者の中の顧客					
3	宣伝とは					5 W1H・AIDMAの法則など					
4	フォロワー数を増やすメリット・デメリット					知名度に伴う誹謗中傷について					
5	Twitter・Instagram①					人気のあるSNSとは					
6	Twitter・Instagram②					フォロワー数をどう増やすか					
7	Twitter・Instagram③					どんな投稿をするべきか					
8	Twitter・Instagram実践					自身でアーティスト名などを設定しSNSを行い、日々、フォロワーを増やす展開を行う。 授業では、どんな投稿が良かったか？反応はどうだったのかをディスカッションしながら、様々な意見やアイデアを出しながら個々がフォロワーを増やすことで、次のマネタイズ展開を行う準備をする。					
9	Twitter・Instagram実践										
10	Twitter・Instagram実践										
11	Twitter・Instagram実践										
12	Twitter・Instagram実践										
13	Twitter・Instagram実践										
14	Twitter・Instagram実践										
15	Twitter・Instagram実践										
16	Twitter・Instagram実践										
評価方法・成績評価基準						履修上の注意					
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。						自身のスマートフォンを使用します					
実務経験教員の経歴											

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		SNS広告実習			
担当教員		小野 憲人			実務授業の有無		×		
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年		1・2		開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. SNSを使ったセルフプロモーションの向上 2. ブランド戦略について 3. SNSを使ったマネタイズ出来る人材育成							
学習目標 (到達目標)		自身のブランド力を高め、SNSでより多くの顧客を獲得し、自身でマネタイズを展開する。							
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		iPad・スマートフォンを使用 プリント配布							
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考			
1	ブランド展開とは					選ばれる戦略			
2	市場リサーチとマーケティング					消費者の中の顧客			
3	宣伝とは					5 W1H・AIDMAの法則など			
4	フォロワー数を増やすメリット・デメリット					知名度に伴う誹謗中傷について			
5	Twitter・Instagram①					人気のあるSNSとは			
6	Twitter・Instagram②					フォロワー数をどう増やすか			
7	Twitter・Instagram③					どんな投稿をするべきか			
8	Twitter・Instagram実践					自身でアーティスト名などを設定しSNSを行い、日々、フォロワーを増やす展開を行う。 授業では、どんな投稿が良かったか？反応はどうだったのかをディスカッションしながら、様々な意見やアイデアを出しながら個々がフォロワーを増やすことで、次のマネタイズ展開を行う準備をする。			
9	Twitter・Instagram実践								
10	Twitter・Instagram実践								
11	Twitter・Instagram実践								
12	Twitter・Instagram実践								
13	Twitter・Instagram実践								
14	Twitter・Instagram実践								
15	Twitter・Instagram実践								
16	Twitter・Instagram実践								
評価方法・成績評価基準						履修上の注意			
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。						自身のスマートフォンを使用します			
実務経験教員の経歴									

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		ブランディング&SNSマーケティング			
担当教員		小野 憲人			実務授業の有無		×		
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年		1・2		開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数		－		単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. SNSを使ったセルフプロモーションの向上 2. ブランド戦略について 3. SNSを使ったマネタイズ出来る人材育成							
学習目標 (到達目標)		自身のブランド力を高め、SNSでより多くの顧客を獲得し、自身でマネタイズを展開する。							
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		iPad・スマートフォンを使用 プリント配布							
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考			
1	ブランド展開とは					選ばれる戦略			
2	市場リサーチとマーケティング					消費者の中の顧客			
3	宣伝とは					5 W1H・AIDMAの法則など			
4	フォロワー数を増やすメリット・デメリット					知名度に伴う誹謗中傷について			
5	Twitter・Instagram①					人気のあるSNSとは			
6	Twitter・Instagram②					フォロワー数をどう増やすか			
7	Twitter・Instagram③					どんな投稿をするべきか			
8	Twitter・Instagram実践					自身でアーティスト名などを設定しSNSを行い、日々、フォロワーを増やす展開を行う。 授業では、どんな投稿が良かったか？反応はどうだったのかをディスカッションしながら、様々な意見やアイデアを出しながら個々がフォロワーを増やすことで、次のマネタイズ展開を行う準備をする。			
9	Twitter・Instagram実践								
10	Twitter・Instagram実践								
11	Twitter・Instagram実践								
12	Twitter・Instagram実践								
13	Twitter・Instagram実践								
14	Twitter・Instagram実践								
15	Twitter・Instagram実践								
16	Twitter・Instagram実践								
評価方法・成績評価基準						履修上の注意			
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。						自身のスマートフォンを使用します			
実務経験教員の経歴									

対象学科		芸能スタッフ科	科目名	マーケティング戦略		
担当教員		渡辺 味希		実務授業の有無	○	
対象コース		マネージャーコース	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数		時間数	36時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 広告に関する基本的知識の習得を目的とする。 2. 広告（宣伝）を戦略的に展開する基本的ノウハウを学ぶ。 3. 広告コピー概論より、より実務的ノウハウを抜粋して指導する。				
学習目標 （到達目標）		広告全般に基礎知識習得とコピーライティングが出来るまでを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		広告コピー概論（宣伝寛喜・植条則夫）その他配布資料				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1・2	広告計画からクリエイティブ戦略について			コピーと広告目標・多様な広告目標・計画と戦略・コンセプト P1～P22		
3・4	問題の発見からアイデア発想について			アイデアと直感・アイデア発想の準備・アイデア発想法 P28～P44		
5・6	スローガンからボディコピーについて			コピーの意味と表現基本公式・ヘッドライン・ボディコピー・スローガン・ネーミング P62～P112		
7・8	コンセプトからフィニッシュ コピーの視覚化			クリエイティブチームと制作プロセス・アイデアの視覚化・コピーとデザインの関係 P122～P137		
9・10	新聞からテレビまで コピーの媒体			広告媒体と構成比・新聞媒体、雑誌媒体、ラジオテレビ媒体の特質と表現 P150～P173		
11・12	ラジオCMの種類と表現			ラジオCMの種類と制約、表現形式、コピーの特質 P180～P201		
13・14	テレビCMの種類と表現			テレビCMの種類と制約、制作手法、表現形式とコピー P206～P215		
15・16	カタカナから外来語まで コピーの表記			コピー表記の基本・漢字とかなの法則・外来語と句読点 P240～P255		
17・18	商品情報から文化情報まで あらゆるコピー表現			商品機能からの発想・イメージと生活情報・社会的、文化的視点、環境を意識 P262～P271		
19・20	薬品広告から不動産広告まで コピーの特質			医薬品・金融・食品・家電・流通・住宅不動産 それぞれの特質と表現規制 P278～P314		
21・22	商品広告から意見広告まで コピーの形式			商品広告・企業広告・国際広告・公共広告・政治広告・意見広告 P322～P370		
23・24	コンシューマリズムから広告綱領まで コピーの倫理			コンシューマリズムとその対応・広告倫理と表現規制・コピーにおける倫理基準 P380～P394		
25・26	セールスアイデアから販売促進まで コピーの連動			広告と販売促進の関係・セールスアイデア・SPメディアの特質とイベント戦略 P398～P412		
27・28	デモグラフィック特性からライフスタイルの特性			訴求対象とマーケットセグメンテーション・ライフスタイルセグメンテーション P418～P433		
29・30	コンセプトリサーチからCMテスト コピー調査			広告におけるアートとサイエンス・広告効果と測定方法・クリエイティブリサーチ P446～P453		
31・32	オリエンテーションからプレゼンテーション			プレゼンテーションの戦術・プレゼンテーションの問題点 P462～P468		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
定期試験35%、レポート35%、コピープレゼンテーション20%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				普段からテレビCMや新聞などで掲載されているコピーに興味を持ち、切り抜きなどをスクラップすることが望ましい。コピープレゼンテーションでは、戦略的意見を求めるので、それに答えられるよう準備して下さい。		
実務経験教員の経歴		新潟のイベント会社勤務（町おこし）				

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		マーケティング戦略					
担当教員		渡辺 味希			実務授業の有無		○				
対象コース		マネージャーコース		対象学年		2		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数				時間数		16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 宣材用素材制作 2. プロフィール作り 3. 二年次はより実務的授業とする									
学習目標 (到達目標)		タレント売り込み用の資料作成が出来る。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		広告コピー概論（宣伝寛喜・植条則夫）その他配布資料									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1	プロフィール作成					タレントプロフィールをフォーマットに記入する					
2	写真撮影（音楽系アーティスト）					スタジオにて写真撮影					
3											
4	コンポジット作成					タレントプロフィール小冊子作製					
5											
6	プレゼンテーション実習					コンポジットを元にタレントの売り込み実技					
7											
8	写真撮影（役者系もしくはお笑い系タレント）					スタジオにて写真撮影					
9											
10	コンポジット作成					タレントプロフィール小冊子作製					
11											
12	プレゼンテーション実習					コンポジットを元にタレントの売り込み実技					
13											
14	コンポジット修正					2つのうち、どちらか1つを修正する					
15	テスト					修正したコンポジットをもとにプレゼンテーションを実施					
16											
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
プレゼンテーション40%、学習意欲20%、コンポジット40% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							実務的な授業が主になります。				
実務経験教員の経歴		新潟のイベント会社勤務（町おこし）									

対象学科		芸能スタッフ科	科目名	アフレコ収録	
担当教員		長谷川 辰也		実務授業の有無	○
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース	対象学年	1	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数	－	単位時間数 48時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 声優に関わるであろう様々なイベントについて学ぶ 2. 声優業界全般についての基礎を知る 3. イベントの実施			
学習目標 (到達目標)		声優イベントの企画が出来る			
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1・2・3	声優とはどんな仕事か？			声優プロダクションについて	
4・5・6	声優の歴史			昭和～令和での声優職業の変化	
7・8・9	声優が活躍するフィールド			進化する声優タレント	
10・11・12	企画①			声優トークショー	
13・14・15					
16・17・18	企画②			朗読	
19・20・21					
22・23・24	企画③			芝居	
25・26・27					
28・29・30	企画③			アフレコライブ	
31・32・33					
34・35・36	アフレコライブ実行準備			声優科のライブ準備	
37・38・39					
40・41・42					
43・44・45					
46・47・48	アフレコライブ本番！				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
企画70%、積極的30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				なにより積極性が求められる授業であることを自覚した上で受講して下さい。	
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて26年の指導、MBAホルダー			

対象学科		芸能スタッフ科	科目名	アフレコ収録	
担当教員		長谷川 辰也		実務授業の有無	○
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース	対象学年	2	開講時期 前期・後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数 32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 声優が関わるであろう様々なイベントを実施 2. 声優業界全般についての基礎を知る 3. イベントの実施			
学習目標 (到達目標)		声優イベントを運営出来る			
テキスト・教材・参考 図書・その他資料		教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1・2	イベント① 声優によるトークショー			企画から実施まで 声優科と合同	
3・4					
5・6					
7・8	イベント① 声優による朗読			企画から実施まで 声優科と合同	
9・10					
11・12					
13・14	イベント① 声優による芝居（20分程度）			企画から実施まで 声優科と合同	
15・16					
17・18					
19・20	イベント① アフレコライブ			企画から実施まで 声優科と合同	
21・22					
23・24					
25・26	イベント② アフレコライブ			企画から実施まで 声優科と合同	
27・28					
29・30					
31・32	アフレコライブ本番！			1年生のサポート	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
企画70%、積極的30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				なにより積極性が求められる授業であることを自覚した上で受講して下さい。	
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて26年の指導、MBAホルダー			

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		芸能スタッフ科		科目名	ステージマネジメント演習				
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無		○		
対象学科		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年		1		開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数				時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 舞台・イベント等の興行の仕組みを理解する。 2. 企画・制作の仕事を理解する。 3. 興行スケジュールの準備から本番行程までの流れを理解する。							
学習目標 (到達目標)		舞台制作での興行プランの作成。							
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		演劇プロデュースに関する資料集まとめをコピーにて配布							
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考			
1・2	演劇プランニング1 プロデューサーについて					演劇やイベントを組む上での必要な考え方			
3・4	演劇プランニング2 演劇スタッフの役割について					演劇公演に必要な人材や役割を理解する			
5・6	演劇プランニング3 公演準備について					公演時に必要な役割と準備			
7・8	演劇プランニング4 +C18:AD25 企画書の準備 提案					企画書作成に関する基礎知識			
9・10	演劇プランニング5 企画書の準備 ディスカッション					演目や内容の提案。内容に関する取り組み方と実現性について			
11・12	演劇プランニング6 企画書の準備 ディスカッション					いくつか取り上げたアイデアをもとに、実現性を考えてみる			
13・14	演劇プランニング7 アイデアの募集					様々な意見やジャンルからアイデアを集める			
15・16	演劇プランニング8 企画書（案）の作成					アイデアを纏め、短時間設定での企画を立ててみる。			
17・18	演劇プランニング9 企画書（案）の作成（テスト）					仮想イベントを設定して、企画書の作成を行ってみよう（提出）			
19・20	演劇プランニング10 演劇公演について1					演劇論1 公演目的と意義			
21・22	演劇プランニング11 演劇公演について2					演劇論2 地域交流（イベント）			
23・24	演劇プランニング12 演劇公演について3					演劇論3 商業化する劇団			
25・26	演劇プランニング13 香盤表について1					出演者やスタッフの動きを考える			
27・28	演劇プランニング14 香盤表について2					出演者のタイムスケジュールについて			
29・30	演劇プランニング15 香盤表について3					スタッフ進行表について			
31・32	演劇プランニング16 企画書の作成					実演目的の企画を立ててみる。（演目時間自由）			
評価方法・成績評価基準						履修上の注意			
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。						簡単なイベントなどから、製作するモノを客観的に捉え、必要な物を揃えること。それをイメージしながら授業にて疑問を持って臨んでほしい。			
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年							

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		ステージマネジメント演習			
担当教員		矢頭 勲			実務授業の有無		○		
対象学科		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年		2		開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数				時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 舞台・イベント等の興行の仕組みを理解する。 2. 企画・制作の仕事を理解する。 3. 興行スケジュールの準備から本番行程までの流れを理解する。							
学習目標 (到達目標)		舞台制作での興行プランの作成。							
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		演劇プロデュースに関する資料集まとめをコピーにて配布							
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考			
1	演劇プランニング1 プロデューサーについて					演劇やイベントを組む上での必要な考え方			
2	演劇プランニング2 演劇スタッフの役割について					演劇公演に必要な人材や役割を理解する			
3	演劇プランニング3 公演準備について					公演時に必要な役割と準備			
4	演劇プランニング4 +C18:AD25 企画書の準備 提案					企画書作成に関する基礎知識			
5	演劇プランニング5 企画書の準備 ディスカッション					演目や内容の提案。内容に関する取り組み方と実現性について			
6	演劇プランニング6 企画書の準備 ディスカッション					いくつか取り上げたアイデアをもとに、実現性を考えてみる			
7	演劇プランニング7 アイデアの募集					様々な意見やジャンルからアイデアを集める			
8	演劇プランニング8 企画書（案）の作成					アイデアを纏め、短時間設定での企画を立ててみる。			
9	演劇プランニング9 企画書（案）の作成（テスト）					仮想イベントを設定して、企画書の作成を行ってみよう（提出）			
10	演劇プランニング10 演劇公演について1					演劇論1 公演目的と意義			
11	演劇プランニング11 演劇公演について2					演劇論2 地域交流（イベント）			
12	演劇プランニング12 演劇公演について3					演劇論3 商業化する劇団			
13	演劇プランニング13 香盤表について1					出演者やスタッフの動きを考える			
14	演劇プランニング14 香盤表について2					出演者のタイムスケジュールについて			
15	演劇プランニング15 香盤表について3					スタッフ進行表について			
16	演劇プランニング16 企画書の作成					実演目的の企画を立ててみる。（演目時間自由）			
評価方法・成績評価基準						履修上の注意			
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%						簡単なイベントなどから、製作するモノを客観的に捉え、必要な物を揃えること。それをイメージしながら授業にて疑問を持って臨んでほしい。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。									
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年							

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		プレゼンテーション技法					
担当教員		大崎 信行			実務授業の有無		○				
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年		1		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数				単位時間数		32時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 小規模（キャパシティー200名前後）のイベント企画・制作・運営を行える実務能力を養う。 2. 前期は企画から制作を中心に授業を展開し、後期以降はステージ舞台の基礎知識を養う。 3. まずは企画書が書けること。次にステージ舞台の制作運営がイメージ出来ること。									
学習目標 (到達目標)		小規模イベント（芝居・音楽ライブ）の企画制作が出来る。									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		THE STAFF舞台監督の仕事（晩成書房 伊藤弘成）、その他プリント配布									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1・2	イベントの基本的構想					組織づくり・スタッフ選定・予算枠決定・会期会場の決定・広報と動員計画					
3・4	イベント目的の設定・基本的コンセプトについて					目的目標の設定・テーマの設定・展開実施プランの作成・会場演出レイアウト・イベント内容・PRプラン					
5・6	マスコミ媒体・PR媒体・DMその他					告知方法・媒体決定・PR手段・招待・入場券手配・リスト準備・アンケート調査					
7・8	会場・展示・告知ツール作成					会場構成・装飾施工手配・出展物リスト作成・搬入搬出計画・来場者誘導計画・届け出について					
9・10	全体運営管理・責任分担と進行チェック					最終チェックポイント・出演者の確認・各スタッフ確認・マスコミ対応など					
11・12	効果測定と評価・実施予算集計と報告書作成					問題点まとめ、PR効果チェック・予算報告・イベント全体の報告書作成・次回への記録、情報集約					
13・14	企画書作成					テーマ・コンセプト・ターゲット・内容の作成					
15・16	企画書作成（広告・動員計画）					誰に、どのように情報を伝えるか。どこへアプローチして設定された動員数を集めるのか。					
17・18	前期模擬プレゼンテーション					作成した企画書をもとにプレゼンテーションを実施					
19・20	台本作り					前期に作成した企画書をもとに台本作成を実施					
21・22	組織の在り方					プロデューサー・ディレクター・舞台監督・音響照明・美術など、それぞれの役割と関係性。					
23・24	舞台監督は裏の主役					イメージを現実・舞台は危険がいっぱい・舞台監督は先を読め・スタッフは根 P8～P12					
25・26	芝居作りの基礎知識（舞台）1					舞台各部の呼び名・幕について・場転について・迫りについて・舞台と客席の境に P14～P24					
27・28	芝居作りの基礎知識（舞台）2					吊り物・照明関係の機構・床面について・装置を飾る P25～P28					
29・30	芝居作りの基礎知識（照明）1					主な照明の名称と略号・生明かりは舞台の空気・シーリングとトップ明かり P29～P35					
31・32	芝居作りの基礎知識（照明）2					明かりはフロントがポイント・バックは美しく・一条明かり・スポット・照明をあやつる P42～P50					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
プレゼンテーション前期・後期80％、学習意欲20％ 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							基本的な基礎知識が中心となるが、この知識が無いと舞台制作は出来ない。定期的実施する舞台や音楽イベントを制作運営するためにも必要なことであるため、しっかり身に付けるようにして下さい。				
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて26年の指導、MBAホルダー									

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		プレゼンテーション技法			
担当教員		大崎 信行			実務授業の有無		○		
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年		2		開講時期	前期・後期
必修・選択		必修		単位数				時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 中規模（キャパシティー500名前後）のイベント企画・制作・運営を行える実務能力を養う。 2. ステージ舞台制作だけでなく芝居作り全般についても学習する。 3. 最終的にホールでの公演を実施する。							
学習目標 （到達目標）		中規模イベント（芝居・音楽ライブ）の企画制作が出来る。							
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		THE STAFF舞台監督の仕事（晩成書房 伊藤弘成）、その他プリント配布							
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考			
1・2	芝居稽古の進め方 1					台本の選び方・上演許可をとる・上演台本の作り方・稽古 日程表作成・キャスティング P88～P95			
3・4	芝居稽古の進め方 2					演出について・本読み・立ち稽古・スタッフ会議・稽古場 作り・稽古手順・通し稽古・附帳 P96～P104			
5・6	尺貫法を知る					セット作り・尺を身に付ける・舞台図を作成 P106～P111			
7・8	明かり仕込み					仕込み図・照明プラン P117～P136			
9・10	CUEシートを書く					CUE台本作成・照明CUEシート（MAN・CPU・SP）・音 響シート・舞台監督CUEシート P157～P174			
11・12	小スペース劇場					実習スタジオを小劇場にする実習 平台・箱馬の使い方・ 客席を整える			
13・14	劇場の打合せ					舞台・照明・音響、各スタッフとの打合せと舞台監督の チェックポイント P183～P194			
15・16	大道具について（建てる）					パネル作り・人形立て・色を塗る・組み立てる P197～P220			
17・18	大道具について（上げる）					平台を並べる、上げる・面を隠す・階段を作る・八百屋を 作る・あり物の代用 P226～P243			
19・20	大道具について（吊る）					バトンを扱う・吊り物の基本・上演中の吊り物の昇降につ いて P246～P267			
21・22	演出効果					遠見・振り落とし・星球・紗幕・特効・水を使う・火を使 う・壁を回す P270～P296（抜粋）			
23・24	本番・劇場へ					搬入搬出・仕込み・注意点・舞台監督の持ち物など P300～P315			
25・26	場あたりとリハーサル					舞台作り・照明音響チェック・役者の心得・リハーサル進 行 P318～333			
27・28	緞帳について					緞帳について・楽屋の使い方・場転と進行 P335～P349			
29・30	芝居がはねる（公演終了後）					舞台をカラにする。吊り物はずす・楽屋現状復帰・搬出 P351～P360			
31・32	メイク・衣装・小道具					メイクアップ・衣装・小道具について P76～P85			
評価方法・成績評価基準						履修上の注意			
定期試験25%、レポート25%、デモ芝居40%、学習意欲10%						照明・音響など、実際に機材を使用することがあります。安全を 確保しながら担当講師の指示に従って下さい。最終授業ではデモ 芝居（15分程度）を行います。知識以上にスタッフの自覚を持っ て挑んで下さい。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以 上)・D評価を不可とする。									
実務経験教員の経歴		放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて23年の指導、MBAホルダー							

②

国際映像メディア専門学校 シラバス

対象学科		芸能スタッフ科		科目名	イベントコンテンツ制作			
担当教員		渡辺 味希			実務授業の有無	×		
対象コース		イベント企画コース		対象学年	2	開講時期		前期・後期
必修・選択		必修		単位数	－	単位時間数	16時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. イベントに必要な制作物の作成 2. Illustrator、photoshopの使用 3. フライヤー、ポスターデザイン						
学習目標 (到達目標)		1. 主にフライヤー、ポスター制作を主とする						
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		プリント配布						
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考			
1	フライヤー・ポスターとは何か？				広告物についての理解			
2	フライヤー・ポスターのデザインについて				目を引くフライヤー・ポスター制作			
3	フライヤーの制作				wordを使ったフライヤー制作			
4	フライヤーの制作				wordを使ったフライヤー制作			
5	プレゼンテーション				紙面構成をチェック！			
6	illustrator				使用方法を説明			
7	illustrator				使用方法を説明			
8	フライヤー制作				illustratorを使ったフライヤー制作			
9	フライヤー制作				illustratorを使ったフライヤー制作			
10	プレゼンテーション				情報が的確にまとめられているかチェック！			
11	photoshop				使用方法を説明			
12	photoshop				使用方法を説明			
13	プレゼンテーション				写真やイラストが目を引くかをチェック！			
14	課題ポスター制作				サイズA3			
15	課題ポスター制作				サイズA3			
16	課題ポスター制作				サイズA3			
評価方法・成績評価基準					履修上の注意			
プレゼンテーション40%、課題ポスター40%、学習意欲20%					illustrator、photoshopが使えるように欠席にないよう授業に参加して下さい。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴		新潟のイベント会社勤務（町おこし）						

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		PC&Webリテラシー					
担当教員		神田 幸司			実務授業の有無		×				
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年		1		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		32時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 情報リテラシーに関する知識 2. パソコンに関する基礎知識									
学習目標 (到達目標)		P C, S N Sに関する基礎知識 ビジネスソフトを中心に基礎使用方法									
テキスト・教材・ 参考図書・その他 資料		プリント配布									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1・2	情報リテラシー					情報を正しく選択し解釈する					
3・4	情報リテラシー					情報を正しく選択し解釈する					
5・6	情報リテラシー					ネット使用の注意点					
7・8	情報リテラシー					ネット使用の注意点					
9・10	ソフト (Word)					文章作成					
11・12	ソフト (Word)					文章作成					
13・14	ソフト (Word)					文章作成					
15・16	ソフト (Word)					文章作成					
17・18	ソフト (Word)					文章作成					
19・20	ソフト (Word)					文章作成					
21・22	ソフト (Word)					文章作成					
23・24	ソフト (Word)					文章作成					
25・26	ソフト (Word)					文章作成					
27・28	ソフト (Word)					文章作成					
29・30	ソフト (Word)					文章作成					
31・32	ソフト (Word)					文章作成					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
ソフト使用上達度40%、課題提出50%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							PC操作に慣れながら、知識・技術を習得。				
実務経験教員の経歴											

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		PC&Webリテラシー					
担当教員		神田 幸司			実務授業の有無		×				
対象コース		マネージャーコース イベント企画コース		対象学年		2		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		32時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 情報リテラシーに関する知識 2. パソコンに関する基礎知識									
学習目標 (到達目標)		P C, S N S に関する基礎知識 ビジネスソフトを中心に基礎使用方法									
テキスト・教材・ 参考図書・その他 資料		プリント配布									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1・2	情報リテラシー					情報を正しく選択し解釈する。復習。					
3・4	情報リテラシー					ネット使用の注意点。復習。					
5・6	ソフト (Excel)					表計算					
7・8	ソフト (Excel)					表計算					
9・10	ソフト (Excel)					表計算					
11・12	ソフト (Excel)					表計算					
13・14	ソフト (Excel)					表計算					
15・16	ソフト (Excel)					表計算					
17・18	ソフト (Excel)					表計算					
19・20	ソフト (Excel)					表計算					
21・22	ソフト (Excel)					表計算					
23・24	ソフト (Excel)					表計算					
25・26	ソフト (PowerPoint)					プレゼンテーション					
27・28	ソフト (PowerPoint)					プレゼンテーション					
29・30	ソフト (PowerPoint)					プレゼンテーション					
31・32	ソフト (PowerPoint)					プレゼンテーション					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
ソフト使用上達度40%、課題提出50%、学習意欲10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							PC操作に慣れながら、知識・技術を習得。				
実務経験教員の経歴											

対象学科	芸能スタッフ科	科目名	専攻実習		
担当教員	若狭 利之		実務授業の有無	○	
対象コース	全コース	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	182時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 制作プロセスの経験と発表 2. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	全期授業の集大成としての朗読・演劇・アフレコその他の制作および公演				
テキスト・教材・ 参考図書・その他 資料	舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～6	企画立案		どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）		
6～15	企画書作成		テーマ・コンセプト・ターゲット決め		
16～25	企画書作成		内容		
26～35	企画書作成		予算・スケジュール・組織図・その他		
36～45	台本作成		資料収集		
46～55	台本作成		基本的構成決定～ラフ台本完成		
56～65	台本作成		台本完成		
66～75	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
76～85	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
86～95	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
96～105	稽古期間		音響・照明プランニング		
106～115	稽古期間		音響・照明プランニング		
116～125	稽古期間		音響・照明プランニング		
126～135	稽古期間		音響・照明プランニング		
136～145	稽古期間		最終チェック		
146～152	リハーサル		会場入り（通し）		
153～159	リハーサル		会場入り（通し）		
160～166	リハーサル		会場入り（通し）		
167～174	ゲネラルプローベ				
175～182	本番		評価		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			それぞれの就学の成果としての制作。		
実務経験教員の経歴	様々なプロフェッショナルと共同で授業実施				

対象学科	芸能スタッフ科	科目名	専攻実習		
担当教員	若狭 利之		実務授業の有無	○	
対象コース	全コース	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	182時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 制作プロセスの経験と発表 2. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としての朗読・演劇・アフレコその他の制作および公演				
テキスト・教材・ 参考図書・その他 資料	舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1～6	企画立案		どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）		
6～15	企画書作成		テーマ・コンセプト・ターゲット決め		
16～25	企画書作成		内容		
26～35	企画書作成		予算・スケジュール・組織図・その他		
36～45	台本作成		資料収集		
46～55	台本作成		基本的構成決定～ラフ台本完成		
56～65	台本作成		台本完成		
66～75	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
76～85	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
86～95	稽古期間		衣装・大道具・小道具作成		
96～105	稽古期間		音響・照明プランニング		
106～115	稽古期間		音響・照明プランニング		
116～125	稽古期間		音響・照明プランニング		
126～135	稽古期間		音響・照明プランニング		
136～145	稽古期間		最終チェック		
146～152	リハーサル		会場入り（通し）		
153～159	リハーサル		会場入り（通し）		
160～166	リハーサル		会場入り（通し）		
167～174	ゲネラルプローベ				
175～182	本番		評価		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			それぞれの就学の成果としての制作。		
実務経験教員の経歴	様々なプロフェッショナルと共同で授業実施				

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		卒業進級制作					
担当教員		若狭 利之			実務授業の有無		○				
対象コース		全コース		対象学年		1		開講時期		後期	
必修・選択		必修		単位数		－		単位時間数		260時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1．1年間の集大成になるライブを実施 2．制作プロセスの経験と発表 3．各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施									
学習目標 (到達目標)		全期授業の集大成としての演劇公演									
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布									
回数	授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考					
1～13	企画立案					どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）					
14～27	企画書作成					テーマ・コンセプト・ターゲット決め					
28～40	企画書作成					内容					
41～53	企画書作成					予算・スケジュール・組織図・その他					
54～66	台本作成					資料収集					
67～79	台本作成					基本的構成決定～ラフ台本完成					
80～92	台本作成					台本完成					
93～105	稽古期間					衣装・大道具・小道具作成					
106～118	稽古期間					衣装・大道具・小道具作成					
119～131	稽古期間					衣装・大道具・小道具作成					
132～144	稽古期間					音響・照明プランニング					
145～157	稽古期間					音響・照明プランニング					
158～170	稽古期間					音響・照明プランニング					
171～183	稽古期間					音響・照明プランニング					
184～196	稽古期間					最終チェック					
197～209	リハーサル					会場入り（通し）					
210～222	リハーサル					会場入り（通し）					
223～236	リハーサル					会場入り（通し）					
237～249	ゲネラルプローベ										
250～260	本番					評価					
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。							進級評価の対象となります。				
実務経験教員の経歴		様々なプロフェッショナルと共同で授業実施									

対象学科		芸能スタッフ科	科目名	卒業進級制作	
担当教員		若狭 利之		実務授業の有無	○
対象コース		全コース	対象学年	2	開講時期 後期
必修・選択		必修	単位数	一	単位時間数 260時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 1年間の集大成になるライブを実施 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施			
学習目標 (到達目標)		全期授業の集大成としての演劇公演			
テキスト・教材・参 考図書・その他資料		舞台制作に関する必要物（台本その他）の配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1~13	企画立案			どんな舞台を作る（演劇・ミュージカル・その他）	
14~27	企画書作成			テーマ・コンセプト・ターゲット決め	
28~40	企画書作成			内容	
41~53	企画書作成			予算・スケジュール・組織図・その他	
54~66	台本作成			資料収集	
67~79	台本作成			基本的構成決定～ラフ台本完成	
80~92	台本作成			台本完成	
93~105	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成	
106~118	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成	
119~131	稽古期間			衣装・大道具・小道具作成	
132~144	稽古期間			音響・照明プランニング	
145~157	稽古期間			音響・照明プランニング	
158~170	稽古期間			音響・照明プランニング	
171~183	稽古期間			音響・照明プランニング	
184~196	稽古期間			最終チェック	
197~209	リハーサル			会場入り（通し）	
210~222	リハーサル			会場入り（通し）	
223~236	リハーサル			会場入り（通し）	
237~249	ゲネラルプローベ				
250~260	本番			評価	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				卒業評価の対象となります。	
実務経験教員の経歴		様々なプロフェッショナルと共同で授業実施			

②

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		i-MEDIAゼミ	
担当教員		若狭 利之			実務授業の有無		○
対象コース		全コース	対象学年		1	開講時期	前期・後期
必修・選択		必修	単位数		一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 毎回、特別講師をお招きして特別授業を実施する。 2. 講演会のように留まらず、実習・演習形式もありえる。 3. 全ての在校生および教職員と一緒に受講する。					
学習目標 (到達目標)		著名なゲスト先生によりスペシャルなトークになります。貴重な経験が出来、人生において大切なことが学べます。					
テキスト・教材・ 参考図書・その他		講師の事前資料あり					
回数	授業項目、内容				学習方法・準備学習・備考		
1・2	スペシャルゲスト講師①				予定講師 声優・アーティスト・映画監督・プロデューサー・ お笑い芸人・イベントプロデューサー・歌手・教育 関係者・YouTuberなど		
3・4	スペシャルゲスト講師②						
5・6	スペシャルゲスト講師③						
7・8	スペシャルゲスト講師④						
9・10	スペシャルゲスト講師⑤						
11・12	スペシャルゲスト講師⑥						
13・14	スペシャルゲスト講師⑦						
15・16	スペシャルゲスト講師⑧						
17・18	スペシャルゲスト講師⑨						
19・20	スペシャルゲスト講師⑩						
21・22	スペシャルゲスト講師⑪						
23・24	スペシャルゲスト講師⑫						
25・26	スペシャルゲスト講師⑬						
27・28	スペシャルゲスト講師⑭						
29・30	スペシャルゲスト講師⑮						
31・32	スペシャルゲスト講師⑯						
評価方法・成績評価基準					履修上の注意		
授業態度と出席で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					事前に講師のプロフィールや資料を配布します。必ず事前に勉強して受講下さい。		
実務経験教員の経歴		業界関係者を招聘したオムニバス形式					

②

対象学科		芸能スタッフ科		科目名		i-MEDIAゼミ					
担当教員		若狭 利之			実務授業の有無		○				
対象コース		全コース		対象学年		2		開講時期		前期・後期	
必修・選択		必修		単位数		一		単位時間数		32時間	
授業概要、目的、 授業の進め方		1. 毎回、特別講師をお招きして特別授業を実施する。 2. 講演会のように留まらず、実習・演習形式もありえる。 3. 全ての在校生および教職員と一緒に受講する。									
学習目標 (到達目標)		著名なゲスト先生によりスペシャルなトークになります。貴重な経験が出来、人生において大切なことが学べます。									
テキスト・教材・ 参考図書・その他		講師の事前資料あり									
回数		授業項目、内容					学習方法・準備学習・備考				
1・2		スペシャルゲスト講師①					予定講師 声優・アーティスト・映画監督・プロデューサー・ お笑い芸人・イベントプロデューサー・歌手・教育 関係者・YouTuberなど				
3・4		スペシャルゲスト講師②									
5・6		スペシャルゲスト講師③									
7・8		スペシャルゲスト講師④									
9・10		スペシャルゲスト講師⑤									
11・12		スペシャルゲスト講師⑥									
13・14		スペシャルゲスト講師⑦									
15・16		スペシャルゲスト講師⑧									
17・18		スペシャルゲスト講師⑨									
19・20		スペシャルゲスト講師⑩									
21・22		スペシャルゲスト講師⑪									
23・24		スペシャルゲスト講師⑫									
25・26		スペシャルゲスト講師⑬									
27・28		スペシャルゲスト講師⑭									
29・30		スペシャルゲスト講師⑮									
31・32		スペシャルゲスト講師⑯									
評価方法・成績評価基準							履修上の注意				
授業態度と出席で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							事前に講師のプロフィールや資料を配布します。必ず事前に勉強して受講下さい。				
実務経験教員の経歴		業界関係者を招聘したオムニバス形式									